日本看護歴史學會 會報

日本看護歴史学会
第35号
2001年1月31日

看護歴史学会のあゆみ
―看護歴史関係文献の検索をめぐって―

高橋　みや子

第十四回大会では看護切手や看護用品の展示等新しい企画も試みられ、講演・研究報告や分科会も盛況のうちに終了しました。

来年の十五回大会（名古屋）を前に、学会活動の一つの指標となる研究発表に関して、大会時の研究報告や分科会報告の数と学会誌の論文及び講演その他の数を整理してみました。

大会時の研究報告と分科会報告は、表一の通り、若干の変動はみられますが、研究報告は毎年四～五題、分科会報告は企画により異なりますが実施時には五～八題となっています。安定した推移です。

一方、学会誌の論文数は、表二の通り毎号一～二題であり全く一題もない年もあります。学会誌としては寂しい限りです。今後は、もっと会員の研究成果を投稿していただき数々の研究論文が掲載されて、看護歴史関係の看護界唯一の学会誌としてより充実したものとなるよう願わざるをえません。

さて、今回看護歴史文献を調べる作業をしている中で、看護関係雑誌掲載以外の文献を検索するには非常に困難を覚えました。特に各学会誌・学術集会誌及び大学・短期大学紀要掲載の文献は、手作業で行う以外の方策はないことが判りました。看護関係雑誌掲載文献は医中誌に採録され、それ以外はほとんど採録されていないからです。

この時、看護歴史文献検索に一番活用できたのは、本学会誌の看護歴史関係文献目録（看護関係雑誌・看護系大学紀要）でした。

ところが、本学会誌があることは、本学会会員以外にはほとんど知られていません。

いみじくも、一緒に作業した方曰く、「このような学会誌があるなんて知りませんでした。検索に載ってこないし……もったいない。歴史研究をしていない者が読んでも面白いし、それでいて水準の高さを感じます。看護学教育者の中に学会誌を活用したい方も居るでしょうに」と。

本会は、手作りの会としてスタートし十四年歩んできましたが、誰もが容易に検索でき、研究成果を研究や教育に活用できるようにするためにも、そろそろ本学会の学会誌及び大会プログラム・抄録集のあり方や編集の方法などを検討する必要があることを痛感しています。

発足十五年目を節目に、いっそう学会が発展していくよう、皆様の英知をだしあって努力しようではありませんか。

（表は2頁に掲載）

第十五回大会予告!!

◆開催期日
平成十三年八月二十四日（金）～八月二十五日（土）

◆テーマ
「看護史をひろげる」

◆会　場
名古屋市立大学看護学部棟

◆内　容
第一日目
講演、研究発表、総会、懇親会
第二日目
分科会、他に写真展など

◆研究発表の申し込みについて
研究発表を希望する方は
・演題名と氏名、所属、会員番号、連絡先を記入した官製はがきにて申し込んで下さい。
・演題締め切り
平成十三年四月十日
（当日消印有効）
抄録提出は六月末日です。

◆送り先
名古屋市立大学看護学部
〒四六七―八六〇一
名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄一番地
大平　政子宛

第十四回大会報告

特別講演「反ナチ抵抗運動と教育の改造」（要旨）

秋田大学教育文化学部教授　對馬達雄

日本とドイツは、第二次大戦におけるファッシズム、敗戦と無条件降伏、戦後のめざましい復興という点では共通している。しかし戦後のドイツは、一貫して過去を反省し、ナチズムを払拭しようと努力してきた。今夏のドイツ旅行で視察した施設と関連させて、ドイツの教育について語りたい。

ベルリン抵抗記念館は、ヒトラーの暗殺計画が失敗した「一九四四年七月二〇日事件」を顕彰するために一九五三年設立されたものである。またミュンヘン郊外にあるダッハウ強制収容所は、ヒトラーが一九三三年政権をとってすぐに設けられ、その後の強制収容所のモデルとされた。一九四五年までに二十二万六千人余りを収容、三万人以上を殺害した。現在は独房を博物館にし、記念碑には Nie Wider (Never Again) と刻まれている。

ベルリン郊外のティーフェンゼー小学校は、反ナチ抵抗運動で有名なアドルフ・ライヒヴァインが教育を実践した学校である。

ヒトラーが率いたナチ体制は「君は何者でもなく君の民族がすべてである」という狂言的なドイツ民族至上主義、生物学的民族論によって「劣等な」民族を排除した。ナチズムの教育は類型的同化の作用としての教育、つまり青少年の個性を無視する「金太郎飴」的人間の再生産であった。

政治的抵抗運動は現在でも、「ドイツの良心の証」として政治教育の題材とされている。

ドイツは、九十八％がキリスト教徒であり、キリスト教が道徳の基盤であった。しかし、ナチス・イデオロギーは自らを政治宗教とし、宗教と教会を弾圧した。

ライヒヴァインを反ナチス行動に駆り立てたものは良心の蜂起であった。なかんずく、教育は主体的自己の形成をすることであるという信念を貫いて、ナチズム教育と安易な妥協をしなかった。一九三九年五月、第二次大戦勃発直前に、彼はティーフェンゼー農村学校を退き、「国立ドイツ民族学博物館」の部長になり、クライザウ・グループに参加し、政治的抵抗者となった。そしてナチス以後のドイツの改造を討議し、戦後の文部大臣になることに擬せられていた。

ライヒヴァインやモルトケのクライザウ・グループの目標は「ドイツ人民の覚醒」であった。その考えの基本は「ナチズムは物質的な価値を過大評価し、精神的な価値と人間としての基礎を失った誤った発展の終着点である。『大衆人』は生きることへの不安から、確実性を願ってナチズムに逃げ込み、取り込まれたのだ。ドイツ人民は精神的に覚醒し、自ら判断できる人間でなければならない」ということであった。

政教分離は近代ヨーロッパ社会の流れであるが、彼ら抵抗者にすれば、キリスト教的ヒューマニズムの思想は、自国民族のみでなく、他の民族・国民と共生する普遍的な思想といえる。隣人愛に根ざすキリスト教的道徳を根本的に再生することは世俗化した世界にあっても、決して時代錯誤ではなく、ナチスによる破壊と野蛮の状態を克服する道として選択されたのである。

戦後のドイツは先進国において独自の「キリスト教教育の復権」という教育の骨格を形成した。

戦後復興の中で、ネチ・ナチという極右集団も出現しているが、抵抗運動が残したキリスト教的ヒューマニズムにもとづく教育は、二十一世紀にはさらに強く求められるのではないだろうか。

表1　第1回～第14回看護歴史学会大会研究報告と分科会話題報告数

年	回	研究報告	分科会	計
1987	1	1	14	15
1988	2	2	7	9
1989	3	1	5	6
1990	4	3	8	11
1991	5	0	4	4
1992	6	2	6	8
1993	7	0	8	8
1994	8	5	8	13
1995	9	0	8	8
1996	10	6	6	12
1997	11	4	4	8
1998	12	5	0	5
1999	13	4	1	5
2000	14	4	6	10

（日本看護歴史学会大会抄録集に基づき作成）

表2　看護歴史学誌第1号～第10号掲載の講演等・研究報告数

年	号	講演等	論文	計
1988	1	1	1	2
1989	2	1	4	5
1990	3	2	1	3
1991	4	2	0	2
1992	5	3	1	4
1993	6	1	1	2
1994	7	1	1	2
1995	8	2	1	3
1996	10	6	6	12
1997	10	3	1	4
1998	11	5	0	5
1999	12	近刊		
2000	13	近刊		

第一日目は、山本捷子会長の講演「歴史に学ぶ看護の智慧――わざこころ」を皮きりに、特別講演、研究発表が行われました。研究発表は四題、時間的にも十分、全員参加で熱心に討論できました。二日目は、米国看護史学会の動きについて依田氏より報告のあった後六つの分科会に分れて、グループディスカッションを行いました。また、両日を通し貴重な史料展示があり注目が集まりました。ひとつの用具から看護方法の変遷に談義の花が咲きました。参加者の声をアンケートからみますと「ドイツに対する見方が変わった、素晴らしい働きをした事実の発掘に感銘を受けた」等好評でした。今大会は日赤秋田短大の先生方を中心とした実行委員会の皆様のチームワークの良さを反映して大変スムースに居心地良く運営され、充実した二日間でした。（感謝）

学会長講演

研究発表は次の四題です。紙面の都合上テーマと発表者のみとしました。

① 広島における米国篤志看護婦（マッギー女史一行）の活動
田村典子（広島県立保健福祉短期大学）

② 占領期における保健婦助産婦看護婦法改正その2　田中幸子（北里大学看護学部）

③ 戦後北海道における看護基礎教育の歴史的発展　一九四五－一九九八　山田玲子（北海道教育大学札幌校）

④ 戦後から本土復帰までの沖縄における看護教育の史的考察
大嶺千枝子（沖縄県立看護大学）

史料展示模様

日本看護歴史学会　2000年度予算

収入の部　（単位　円）

項　目	予算額	摘　要	前年度決算額
前年度繰越金	1,031,971		601,752
会　費	680,000	170名×@4,000	636,000
寄付金その他	50,000		45,920
合　計	1,761,971		1,283,672

支出の部　（単位　円）

項　目	予算額	概　要	前年度決算額
事務経費	370,000		105,401
印刷費	(50,000)	会報　2回	(52,702)
通信費	(170,000)	学会誌　1回	(36,000)
文具・その他	(150,000)	アルバイト代を含む	(16,699)
幹事会開催費	200,000		105,350
出版費	360,000		40,950
会報発行費	(60,000)	年2回	(21,000)
学会誌発行費	(300,000)	年1回	(19,950)
			(0)
会員名簿作成費	0	（1回／3年）	0
予備費	831,971	（委員会開催費含む）	0
合　計	1,761,971		251,701

日本看護歴史学会　1999年度会計報告

収入の部　'99. 7. 1～'00. 3. 31

項　目	予算額	決算額	差引額
前年度繰越金	601,752	601,752	0
会　費	680,000	636,000 会員　143口 新入会員　16口	44,000
寄付金その他	50,000	45,920 会誌等売上　(29,720) 印税　(16,200)	4,080
合　計	1,331,752	1,283,672	48,080

支出の部　'99. 7. 1～'00. 3. 31

項　目	予算額	決算額	差引額
事務経費	300,000	105,401	194,599
印刷費	(30,000)	(52,702)	
通信費	(170,000)	(36,000)	
文具、その他	(100,000)	(16,699)	
幹事会開催費	200,000	105,350	94,650
出版費	360,000	40,950	319,050
会報発行費	(60,000)	会報32号　(21,000)	
学会誌発行費	(300,000)	会報33号　(19,950)	
会員名簿費	0	0	0
予備費	471,752	0	471,752
合　計	1,331,752	251,701	1,080,051

次年度への繰越金
収入額1,283,672円－支出額251,701円＝1,031,971円

（会計監査報告）
監査の結果、上記報告書は日本看護歴史学会の1998年度の収支を適正に表示していることを認めます。

平成12年7月30日　会計監査　五十嵐　節　印
平成12年7月19日　会計監査　竹中京子　印

事務局からのお知らせ

―総会での決定事項―

総会議事はすべて、承認されました。概要は次のとおりです。

(1) 平成十一年度活動報告
①会報発行二回（第32、33号）②会誌発刊：現在12号編集中で未発行③大会開催：第13大会「世紀を超えて、看護の未来」大阪市にて開催

(2) 平成十一年度決算報告並びに会計監査報告：三頁に掲載
特別会計（テレカ収支等）
報告：現在額一、三一三、三九二円

(3) 平成十二年度活動計画
①国内・外その他学会との交流②学会誌、会報の発刊③看護史の史料の所在目録及び所蔵目録の作成④学会活動の組織化

(4) 平成十二年度予算：3頁に掲載

(5) 平成十二年度会計監査の選任
細越幸子（岩手）、滝下幸栄（京都）の両氏

主な意見として、会費値上げやホームページの立ち上げ等がだされ、今後の検討課題になりました。

お知らせ！

◆特別会計の運用方法について会員の皆様の意見を募集します。FAX、E-mail、文書等で四月末までに、事務局までご連絡下さい。

◆学会誌の編集企画委員は、諸事情により、氏家幸子氏、吉川龍子氏及び総務幹事が当分の間、担当します。12号発刊に向けて鋭意努力中です。

日本看護歴史学会 一四回大会の収支決算報告

今年八月秋田で開催されました一四回大会の収支決算を左記のとおり報告します。

日本看護歴史学会第14回大会　決算報告書

収入の部

費目	金額	内訳
参加費	304,000	76名
懇親会費	152,000	38名
寄付金	52,000	日赤秋田短大個人寄附
合計	508,000	

支出の部

費目	金額	内訳
会場費	40,288	会館借用料
印刷費	80,850	開催案内・抄録
通信費	22,600	開催案内送付
謝金	50,000	講師謝礼
賃金	53,000	ボランティア
接待費	51,217	昼食・お茶
雑費	10,045	文具その他
懇親会費	200,000	4,000×50人分
合計	508,000	

第十四回　大会会長　山本　捷子
本　会　会　計　大平　政子
玄田　公子

◆会費納入のお願い
二〇〇〇年度会費（四千円）未納の方支給納入して下さい。なお、未納額を確認されたい方は会計大平政子氏（〒467―8601名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄一　名古屋市立大学看護学部）へご照会下さい。

なお、会則第六条の規定により、年会費を三年以上滞納した方は、会員の資格を失うことになりますので、御留意下さい。

◆新入会員の紹介は次号でします。

◆学会誌第一三・一四号原稿募集！
会員の皆さま、日頃の研究成果をご発表下さい。投稿希望の方は、事務局まで、ご一報下さい。

編集後記

年初めの一月六日、大雪にもめげず参集した幹事九名の心意気に本会の明るい前途を見る思いです。それにつけても「順境にあって驕らず、逆境にあって挫けず」を座右の銘にしている友の心情を想う。（ふ）

日本看護歴史学会会報第三十五号
発行責任者　藤村龍子　東海大学健康科学部看護学科
編集責任者　福本　恵　京都府立医科大学　医療技術短期大学部

事務局
〒602―0857
京都市上京区清和院口寺町東入中御霊町四一〇
京都府立医科大学　医療技術短期大学部
岡山寧子・福本　恵
TEL〇七五―二一二―五四四二
FAX〇七五―二一二―五四四二（岡山）
Email:okayamay@cmt.kpu-m.ac.jp